

■コメント

1. 梅毒

5件の報告があり、今年の累計は44件(男性25件、女性19件)となりました。年齢階層別報告数は、20～40代が全体の88.6%を占め、男性では40代、女性では20代がそれぞれ最も多くなっています。(2016年の年間報告数は27件)

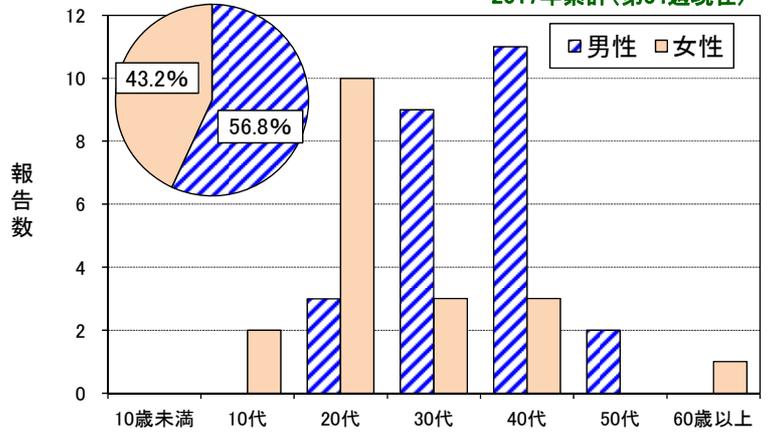
感染が疑われる症状が見られた場合には、早めに医療機関を受診し、相談しましょう。

2. RSウイルス感染症

定点当たり2.29人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。体調管理に注意し、手洗いの励行や咳エチケットなど感染予防対策を徹底しましょう。

梅毒の男女別・年齢階層別報告数(広島市)

2017年累計(第34週現在)



第33週はお盆期間中で、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があり、正確な比較ができないため、第34週は「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	-	
小児科	咽頭結膜熱	7	0.29	0.52	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	1.38	0.65	
	感染性胃腸炎	98	4.08	3.34	
	水痘	20	0.83	0.62	
	手足口病	83	3.46	1.60	
	伝染性紅斑	-	-	0.27	
	突発性発しん	9	0.38	0.53	
	百日咳	-	-	0.04	
	ヘルパンギーナ	21	0.88	0.96	
小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.73	
眼科	RSウイルス感染症	55	2.29	0.59	
	急性出血性結膜炎	2	0.25	0.05	
基幹	流行性角結膜炎	6	0.75	1.29	
	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	1	0.14	0.23	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.40	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	98	女性(30歳代)・推定感染地域:国外・1人、男性(60歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	2	男性(40歳代)・1人、女性(70歳代)・1人
5	梅毒	5	44	女性(20歳代)・2人、女性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・2人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
報告数	広島市	第30週	-	9	40	71	8	188	1	8	-	12	2	34	1	9	-	-	1	-	-	-	-
		第31週	-	12	49	92	7	132	-	13	-	19	-	64	-	7	-	-	-	-	-	-	-
		第32週	1	5	21	59	9	96	-	7	-	25	1	46	1	9	-	1	-	-	-	-	-
		第33週	1	6	34	79	15	73	3	10	-	14	1	34	-	7	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第30週	-	0.38	1.67	2.96	0.33	7.83	0.04	0.33	-	0.50	0.08	1.42	0.13	1.13	-	-	0.14	-	-	-	-
		第31週	-	0.50	2.04	3.83	0.29	5.50	-	0.54	-	0.79	-	2.67	-	0.88	-	-	-	-	-	-	-
		第32週	0.03	0.21	0.88	2.46	0.38	4.00	-	0.29	-	1.04	0.04	1.92	0.13	1.13	-	0.14	-	-	-	-	-
		第33週	0.03	0.25	1.42	3.29	0.63	3.04	0.13	0.42	-	0.58	0.04	1.42	-	0.88	-	-	-	-	-	-	-
全国	全国	第32週	0.17	0.52	1.05	2.87	0.22	7.12	0.04	0.37	0.01	1.70	0.38	1.66	-	0.75	0.02	0.05	0.24	0.01	0.01	0.01	0.01
		第33週	0.14	0.49	0.93	2.71	0.23	5.54	0.05	0.37	0.01	1.19	0.38	1.76	0.01	0.85	0.03	0.06	0.29	0.01	0.01	0.01	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(39.2) 発疹 水疱 口内炎	2	男	2017/07/08	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
流行性角結膜炎	結膜充血 眼脂 濾胞性結膜炎 角膜混濁 点状表層角膜炎 重症感	27	男	2017/07/03	結膜擦過物	アデノウイルス56型
その他の呼吸器疾患	発熱(40.4) リンパ節腫脹	6	女	2017/07/13	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 肺炎	1	女	2017/07/01	咽頭拭い液 鼻汁	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 肺炎	1	女	2017/07/01	咽頭拭い液 鼻汁	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.4) 紅斑 咽頭炎 リンパ節腫脹	3	男	2017/07/05	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	下痢 腸重積	0	男	2017/07/20	糞便	パレコウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！！

腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。例年、気温の高い時期に報告数が多くなっており、全国では集団発生も報告されています。

予防のために、次のことに特に注意しましょう。

- 食材や調理器具は十分に洗浄し、手洗いを励行しましょう。
- 食品は長時間室温に放置せず、冷蔵庫や冷凍庫に保存しましょう。また、肉・レバーなどは中心部まで十分加熱し、生食は控えましょう。
- オムツの取り扱いには十分注意しましょう。
- 家庭用プールなどを介して感染することもあるため、使用する際は衛生管理に十分注意しましょう。

【参考】

- ・厚生労働省 わかりやすい感染症Q&A・腸管出血性大腸菌感染症(O157)
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou16/pdf/01c.pdf>
- ・広島市感染症情報センターHP 正しい手の洗い方(感染症予防のために手を洗いましょう)
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1267092348907/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2017年第34週(8月21日~8月27日)